

NPO 法人ジョブコーチ・ネットワーク
東京ロータリークラブ・チャレンジ110
みんないきいきプロジェクト

第3回 企業内ジョブコーチ交流セミナー

障害のある学生の 就職への移行を支援する！

～ 顔の見えるネットワーク構築 ～



日時：令和8年5月13日（水）

13：00～17：00（会場受付開始12：30）



会場：AP市ヶ谷 Dルーム

東京都千代田区五番町1-10 5階

SCHEDULE

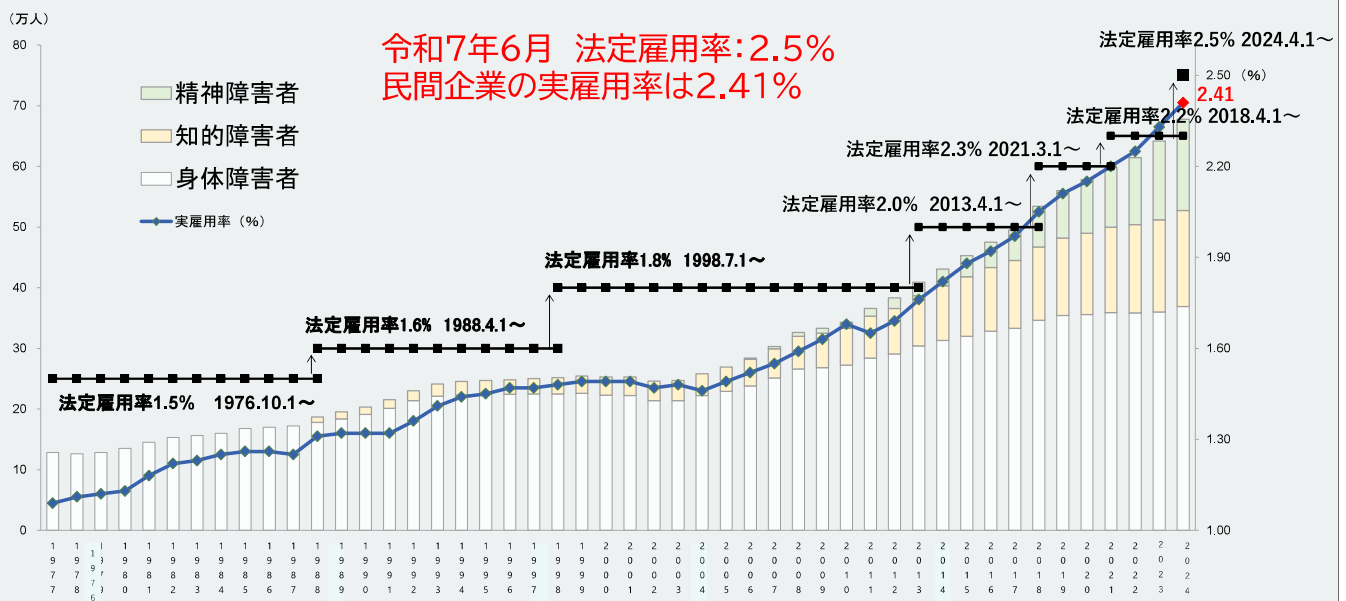
- 13:00~13:10 開会の挨拶 小川浩（大妻女子大学）
- 13:10~14:25 第一部：登壇者プレゼン
高橋有子（住商ウェルサポート株式会社）
八重樫祐子（株式会社LIXIL Advanced Showroom）
石川千佳子（中央大学法学部）
鈴木祥大（一橋大学）
高橋亜希子、小川健（株式会社エンカレッジ）
- 14:25~15:25 意見交換
- 15:25~15:40 休憩・レイアウト変更
- 15:40~16:50 第二部：交流セッション
- 16:50~17:00 閉会の挨拶 尾関竜太郎
(東京ロータリークラブチャレンジ110委員長)

企業内ジョブコーチ交流セミナー

～障害のある学生の就職への移行を支援する！顔の見えるネットワーク構築～

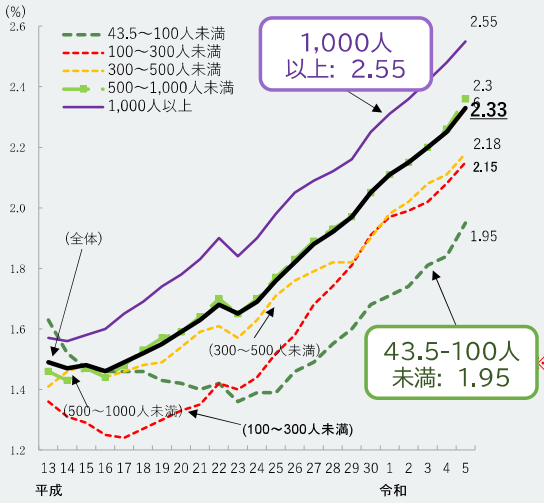
大妻女子大学
NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク
小川 浩

障害者雇用は進展しています

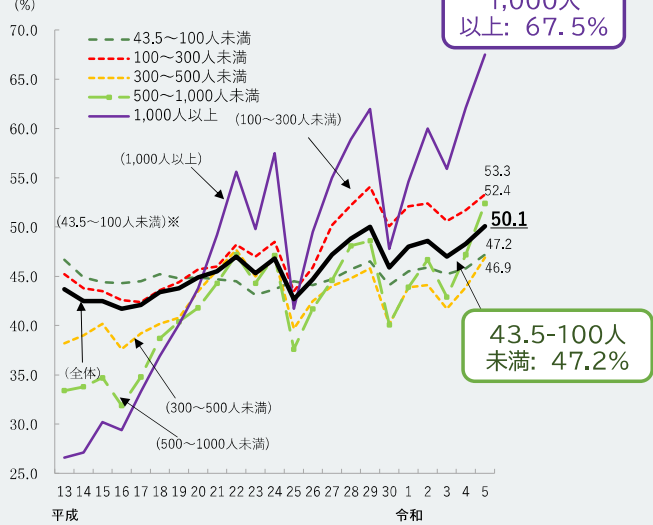


大企業がけん引する障害者雇用

企業規模別実雇用率



企業規模別達成企業割合



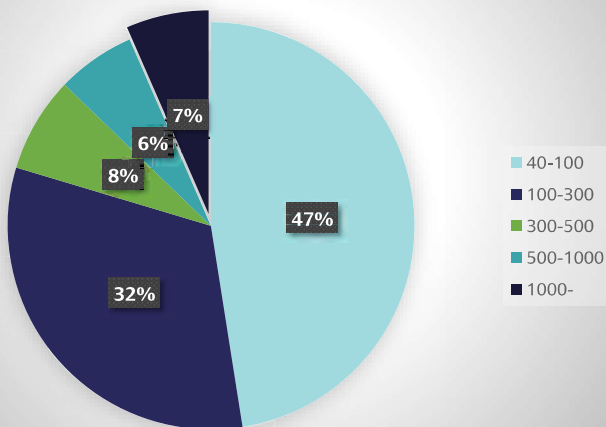
大企業と中小企業では実雇用率の乖離が大きい

未達成企業の割合も中小企業の方が高い

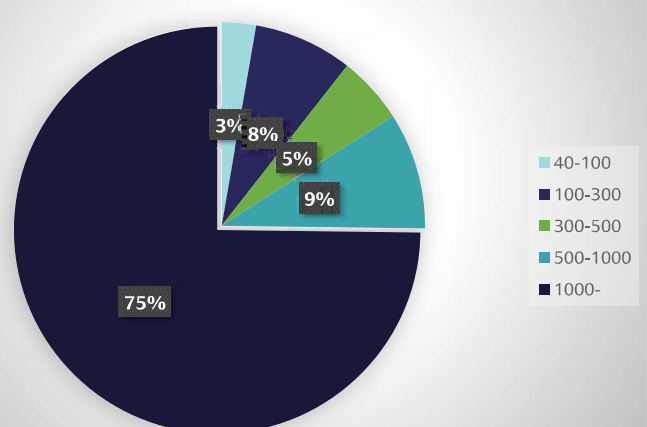
出典：障害者雇用状況報告（厚生労働省）

大企業が支える障害者雇用

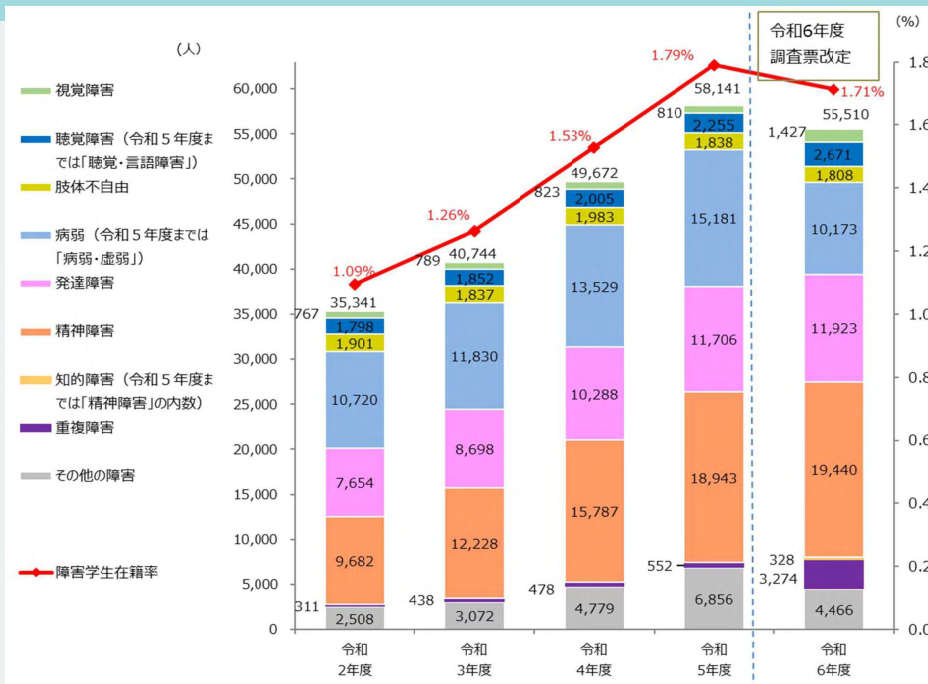
東京労働局管轄
障害者雇用企業数（規模別）



東京労働局管轄
雇用障害者数（規模別）



増える障害学生



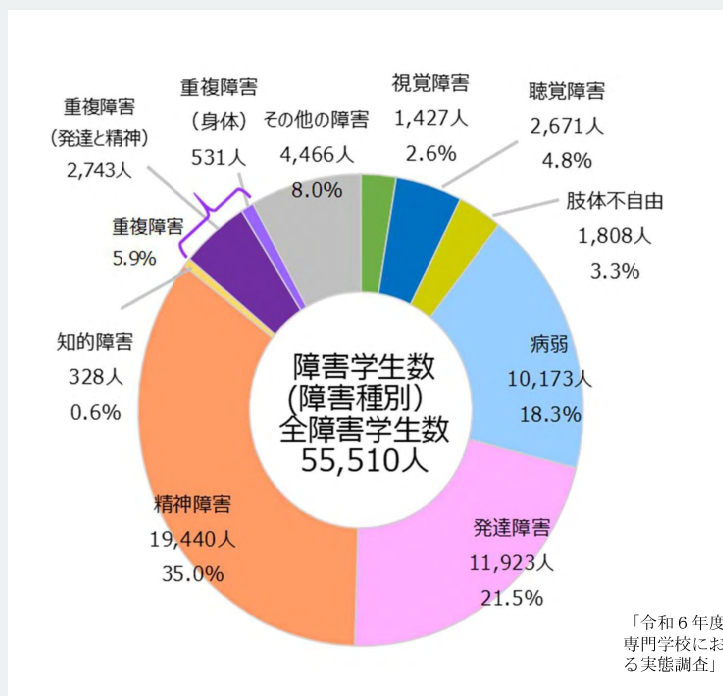
- 障害学生数：55,510人
- 障害学生在籍率：1.71%
- 障害学生のうち特性に応じた支援を受けている学生の割合：67.0%
- 合理的配慮として提供されている学生の割合は48.6%

「令和6年度（2024年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果、日本学生支援機構より

- <障害区分の令和6年度からの主な変更点>
- ◆「聴覚・言語障害」を「聴覚障害」に変更（言語障害を「その他の障害」に移行）
 - ◆「病弱・虚弱」を「病弱」に変更（「虚弱」を削除）
 - ◆「知的障害」を新設（「精神障害」から分離）
 - ◆発達障害と精神障害の重複を「重複障害」に計上（従来は「発達障害」、「精神障害」又は「その他の障害」のいずれかに計上）

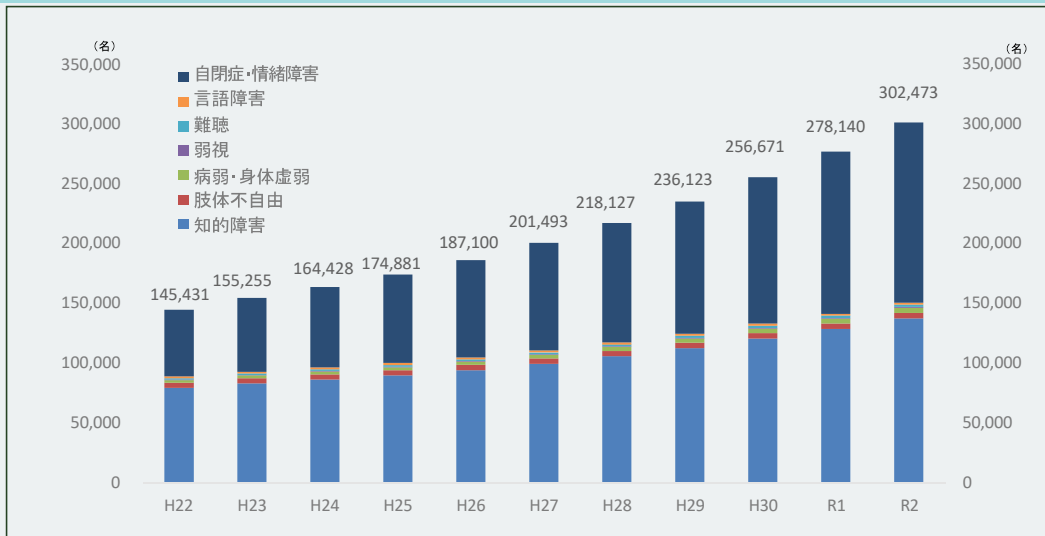
障害種別の状況

- 「精神障害」19,440人
- 「発達障害」11,923人
- 「病弱」10,173人
- 「発達障害」「精神障害」「知的障害」「重複障害（発達と精神）」の合計：62.0%。



「令和6年度（2024年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果、日本学生支援機構より

特別支援学級の児童生徒数・学校数の推移 (各年度5月1日現在)

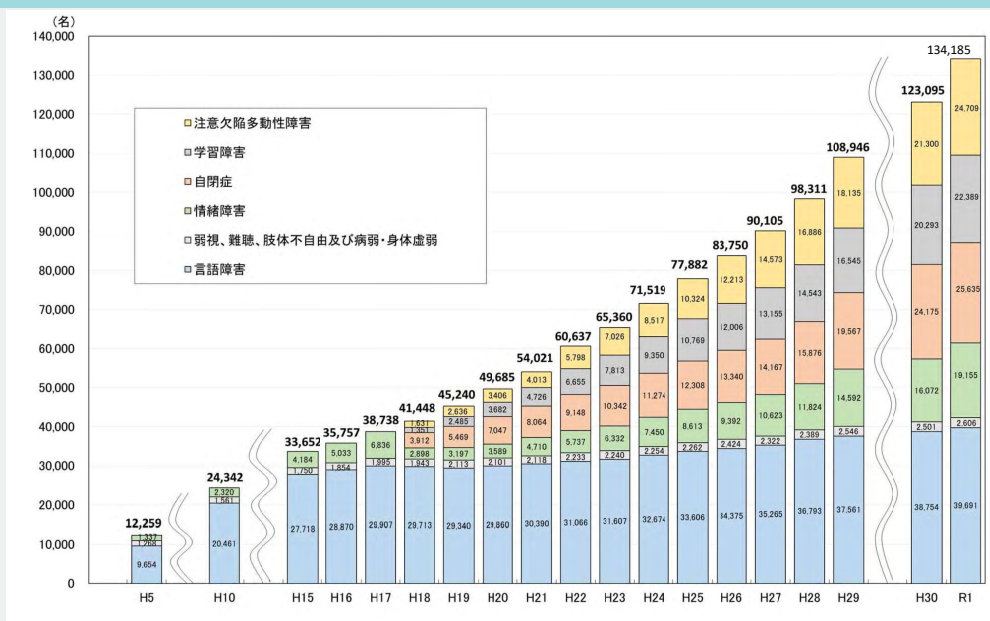


【令和2年度の状況】

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	29,162	3,150	2,518	537	1,294	707	29,287	66,655
在籍者数	138,232	4,685	4,312	643	1,965	1,495	151,141	302,473

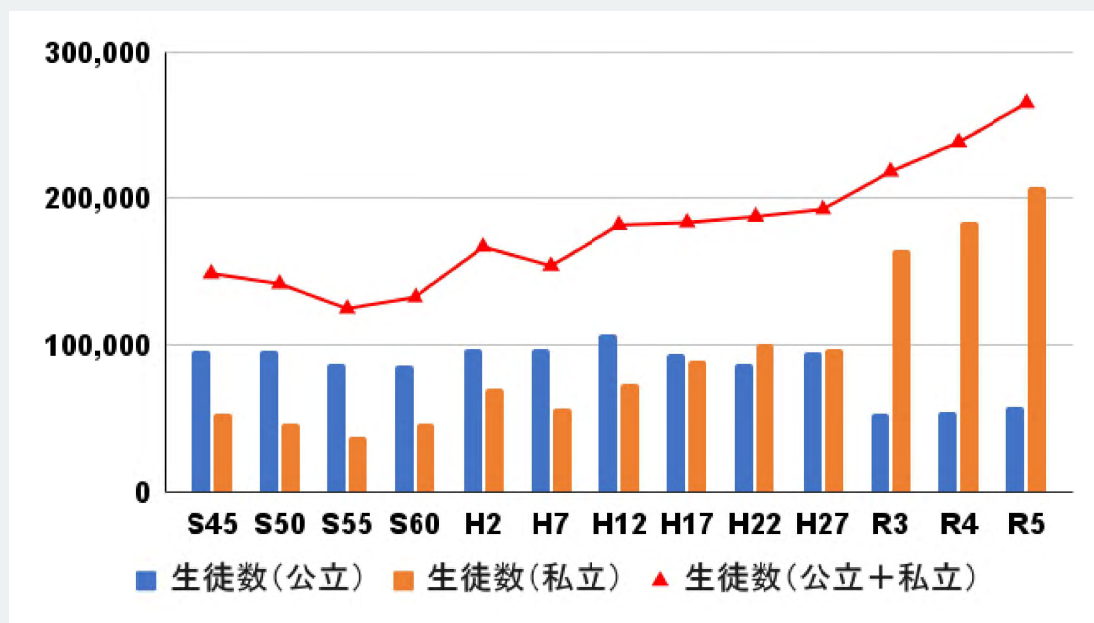
(出典)学校基本統計

通級による指導を受けている児童生徒数の推移 (各年度5月1日現在)



※平成30年度から、国立・私立学校を含めて調査。
 ※高等学校における通級による指導は平成30年度開始であることから、高等学校については平成30年度が計上。

通信制高校の学校数と生徒数の推移



2026年5月13日(水)

第3回 企業内ジョブコーチ交流セミナー

「障害のある学生の就職への移行を支援する!」

新卒大学生採用に向けた取り組み

 住商ウェルサポート株式会社



新卒採用について

- 01 なぜ今、新卒なのか
- 02 今、どこまで来ているか
- 03 現場で見えてきたこと
- 04 今後のロードマップ

現場でみえてきたこと

就業準備・受け入れ・定着を一体で捉える

就業準備性

※土台形成層が中心

週5日勤務への準備と対策
学生自身の認識
適切な支援と環境設計

受入体制

入社後設計

大卒育成のノウハウ
研修と業務設計
組織の中で強みを活かす

定着

継続的な伴走支援

離職だけを問題にしない
社会との接点を保つ
入社前後からの支援

※当社では個々の就業準備性についての目安を以下の4層に整理しています。

①自走層 (スポット支援中心) ②伴走層 (定期面談・調整で安定) ③土台形成層 (生活・体調支援の再設計で就業が見込まれる) ④就労前段階層 (就職の見通しが未確定)

今後のロードマップ

IT・アプリ開発に興味のある方対象

臨時開催!!

企業説明会

授業・独学で「少しでも触れた経験」を活かせる企業説明会

本説明会では、実際のPCチームでの開発業務の流れや働き方、求められるスキルなど、「仕事としてのIT・アプリ開発」を具体的に紹介します。就職活動の情報収集の場としてご参加いただけます。文系・専系も問いません!

開催概要

2026年 5月29日 (金) 16:00-17:30

形式 オンライン開催 (定員30名) **内容** ● 本社・開発チームのご紹介 ● 卒業生からのリアルストーリー (特約編) ● 今後のオープンカンパニーや採用のご案内 ● 質疑応答

対象 ● 大学生、大学院生、短大生、高専生、既卒5年以内の方 (5学年の参加歓迎) ● 文系・理系は問いません。未経験者でもOK!

参加にあたって ● 本説明会は選考ではありません ● カメラONでの参加を推奨しています (難しい場合はOFFでも可) ● チャットでのご質問もお受けします

お申込み方法 [申し込みフォーム] もしくは右のQRコードからお申し込みください
申込期間: 2026年5月29日(金)17:00まで

お問合せ welsupport-career@sumitomocorp.com
090-3963-6721 (担当:高橋)

こんな方におすすめ

- IT・プログラミング・アプリ開発に興味がある
- 授業や課題、独学ですべてに触れてきた経験がある
- 自分の経験が仕事につながるのを知りたい
- チームでの開発の道の方に興味がある
- 「作ること」に興味があり、今後挑戦してみたい
- 文系でも関われるITの仕事を知りたい

今のスキルでも、「これからどう伸ばしていきたいか」を大切にしています。IT・アプリ開発の道はますます広がっています。経験がなくても、その一歩を「仕事として活かす」ことに挑戦してみませんか。まずは気軽にご参加ください!

住商ウェルサポート株式会社

2027年3月 卒業見込みの方対象

FOR NEW GRADUATES

住商ウェルサポート株式会社 新卒採用説明会

2026年

6/16 (火) 15:00~17:00
24 (水) 10:00~12:00
30 (火) 15:00~17:00

会場: 本社 (東京都千代田区大手町二丁目3番2号 大手町プレスタワー)

対象: 2027年3月卒業見込みの大学生・大学院生・短大生・高専生

定員: 各回定員5名 (先着順) ※定員に達し次第、締め切りとなります

POINT! 説明会へのご参加が、応募の条件となります

申込はコチラから⇒[申し込みフォーム](#)・QRコード
申込期限: 6月12日(金)

住商ウェルサポート株式会社
welsupport-career@sumitomocorp.com
お問い合わせ: 090-3963-6721 (担当:高橋)

特例子会社
新卒採用



育成ノウハウの共有
課題の共同検証
キャリア支援連携



オープンカンパニー
学生面談
会社見学

現場レベルでの連携・情報交換を通じた協働を進めてまいります

THANK YOU



住商ウェルサポート株式会社
Sumisho Well Support Co., Ltd.

YOURSの取り組み・ 活躍社員について

株式会社LIXIL Advanced Showroom の 障がい者雇用

2026年5月13日

経営管理統括部 ココロラボ

八重樫祐子

会社概要

商号:株式会社LIXIL Advanced Showroom

代表:鈴木 浩之

設立:2013年9月20日

本社:東京都 品川区 北品川

拠点数:全国81ショールーム+オンラインショールーム

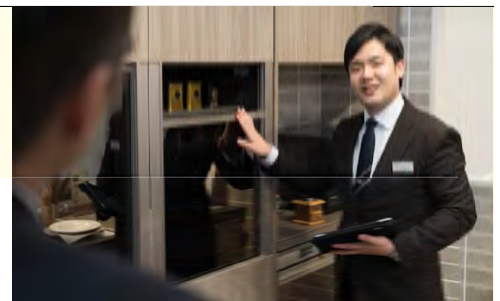
資本金:1億円

従業員数:1,561名

株主:株式会社LIXIL / アデコ株式会社



令和7年度
障害者雇用エクセレントカンパニー賞
受賞しました！



YOurS(ユアーズ)活動(LASの障がい者雇用)の歩み







LASのダイバーシティ&インクルージョン推進のため 2016年2月に発足。

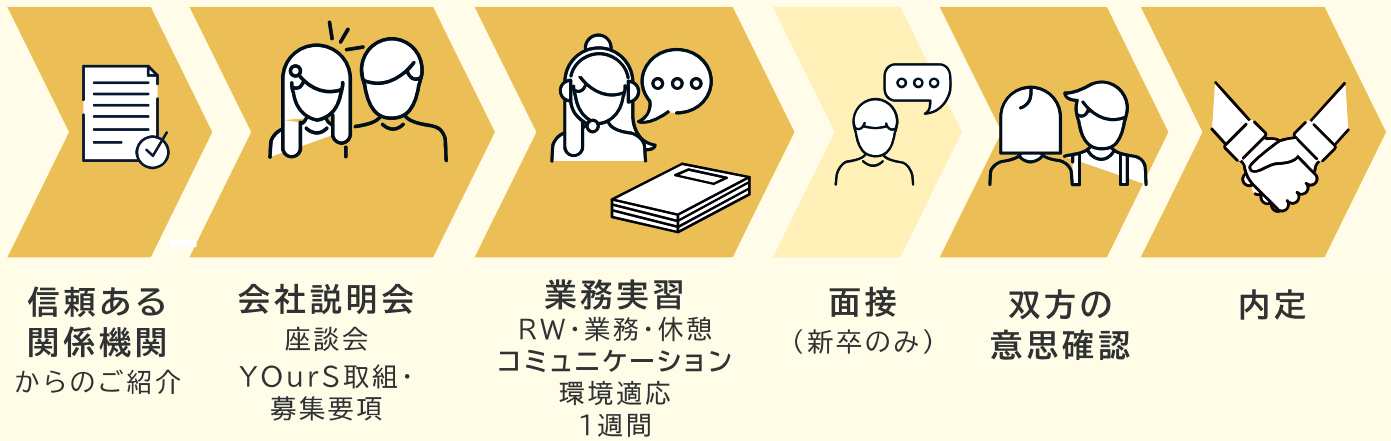
ゼロからスタートした障がい者雇用をメインに、子育てや介護との両立支援、ジェンダーレスなど、様々な角度から多様な人財がより活躍できる組織とするため、模索してきました。

「社員みんなが笑顔ではたらく会社になりたい」、その想いを
“Your Smile, Our Smile”
というスローガンに込めました。
その頭文字を組み合わせ、YOurS(ユアーズ)活動と呼んでいます。

障がいのある大学生の採用ポジション

ポジション	業務概要	社員背景
社内SE	<ul style="list-style-type: none">社内イントラ構築基幹システム入替RPA自動化	 理系国公立大学卒
広報	<ul style="list-style-type: none">社内外動画編集採用広報、V-Tuber	 美術系大学卒
オンライン接客	オンラインショールームでの お客様ご案内	 文系国公立大学卒 文系私立大学卒
ピアサポーター	<ul style="list-style-type: none">YOurSの調子確認業務習得フォロー保健師面談の設定	 文系私立大学卒

YOurS採用の流れ



Point

- ✓ 求める人財を包み隠さず伝える
- ✓ 会社の魅力を併せて伝える

採用の考え方

- ✓ 戦略として有期採用を取っている
- ✓ 実習を通じて双方が確認・判断する
- ✓ オープンな募集はしない

実習事例:業務&環境体感(候補者)と目的・視点(企業)

	研修概要	課題	体験いただく内容	目的及び視点 <input checked="" type="checkbox"/>
Day 1	『YOurS通信』	社内SNSへD&I推進投稿の文書作成 例)障がい,セルフケア等	インクルーシブな社風構築に向けた取り組み	・自己受容及び理解度 ・マインドの志向性
	『ピアサポーター業務』	事例を読んで、自分なりに支援計画を作成	ペルソナ毎に異なるアプローチを検討	・他者や課題との関わり方の志向性 ・柔軟性
Day 2	『LIXILの商品について』 依頼内容調査、資料報告	HPで商品を選定し、プレゼン資料を作成&発表	Web調査した内容を資料にまとめ、 依頼主に報告	・休憩(体調管理) ・アドバイス受容(素直さ)
Day 3	『スプレッドシート基礎』 書式設定、簡単な数式	見やすい表の作成 関数を利用したDATA抽出	企業で扱うDATA量 DATAから読み取る分析	・傾聴(勤務態度) ・発信力(報連相)
Day 4	「お客さま情報入力業務」	シュミレーターを使用した個人情報デモデータの 入力	ダブルチェックの重要性 自分のミス傾向	・習得意欲(確認・復習) ・成功体験(モチベーション)
Day 5	YOurSメンバーと座談会	YOurSの自己紹介・質疑応答 テーマ毎のコミュニケーション: 例)はたらくとは、在宅勤務メリットデメリット	・企業で“はたらく”を知る (マインド・姿勢・自立/自律) ・多様な仲間を知る	・他者受容と配慮 ・SMILE Values(行動指針)の理解 ・インスパイア
	最終すり合わせ 振り返り面談	本人・支援者・企業の3者面談 5日間を通じての感想、業務に対する手ごたえ、 環境マッチ、目標達成度等共有	・自身の気持ちを整理、入社を想定 した質疑応答で就職への不安解消 ・強み・伸びしろを確認	・実習前後の変化 ・価値観すり合わせ ・共感度確認



現スキルや業務マッチングをアウトプットで確認しながら、実習を通じ共に過ごす中で
多くのコミュニケーションを取り、マッチング採用に向けた視点や体感頂いた上での入社意欲を確認する

Aさんの場合



入社4年目
対人接客業
適応障害

幼少期から「意志が弱い」「気が弱い」と自己評価
マイナスを避ける行動志向性
消極的理由で人生選択傾向があった
国公立大学を卒業後LASに入社

受診のきっかけ・大学での障害の表出

周囲が就活フェーズに移行する中、
何をしたいかわからず思い悩み眠れなくなる

適性検査のグラフは平均値が低く、数値的にも
向いている業界が見つけれられない

「企業が求める
自己」との葛藤



→就活が原因で適応障害に

就活

2年半の休学期間を経て就活再開
オンライン型の就活サービスを利用

自己対話を重ね本質的な希望条件を見出しエントリー
選考中の職場実習で職種イメージが変化
人事担当者とのやり取りにより、納得感を持って内定

入社後

「転んでも何とかなる」感触がある

- 日報を通した上長との**継続的なコミュニケーション**で
安心感が醸成
- 弱みと認識していた「不安の強さ」が顧客対応の丁寧
さ、**慎重さとして強みに**
- 不明点・疑問点は些細なことでも質問する習慣

Bさんの場合



入社5年目
デザイナー業
ADHD・ASD

小学校3年時に授業についていけなくなり不登校に
中学はフリースクールへ
絵を描くこと、デザインを考えるのが好きで
美術系の科目を多く取れる通信制高校を選択
私立美術大学を卒業後、LASに入社

受診のきっかけ・大学での障害の表出

高校3年頃、大人の発達障害についての
特集テレビをみて自分と似ていると感じた

AO入試で美大に合格するも、レベルの高い授業
や課題提出期限に苦戦

「だめな自分」



.....合理的配慮を申し出るもノウハウがなく、
各教授の判断に任せただけ

就活

一般雇用での就職に求められるハードルに圧倒
求められる人物像と自己の乖離

→ 障害を開示する障害者雇用へ切り替え

3日間の実習中、実際に担う予定の業務を体験
どんな人と一緒に働かイメージが湧き、
「これならできる」と就職を決める

入社後

「ちょっとしたことで相談しやすい環境がとても
ありがたいです」

- フルリモート勤務
- **口頭での聞き漏らしを防ぐ**ため、チャットでの指示
- 朝会などでの穏やかな雰囲気によって、**不明点や
不安を早期解消**できる

Cさんの場合



入社5年目
接客業→総務・ピアサポート
高次脳機能障害

中学2年時、交通事故に合う
高校入学後、半年で通えなくなり、精神科を受診
事故の後遺症から高次脳機能障害と診断される
高卒認定を取り私立大学へ
卒業後、LASへ入社

受診のきっかけ・大学での障害の表出

精神科から抗うつ状態と診断されていたが、
事故の話題から脳神経外科を紹介される

バッテリー不足
との葛藤



教職課程や課外活動はせず、小規模な学生生活を選択
元々成績がよかったため「できる自分」と「できる活動内容」に
ギャップがある

就活

見た目や話し方から障害が見えないため、周囲の
期待に応え「パンクしてしまう」懸念から障害を開示

一般企業のオープン就労は就職後のイメージが湧かず
不安が大きく、「できそうな部分」の想像だけではモチ
ベーションが上がりにくい

入社後

「入社後のイメージが付き、やりがいと安心感を両立
して働けそうと思った」

- フルリモート勤務で集中力を保てる
- 日報で**疲れ具合**を適宜確認・報告する
- 相談しやすい「**弱さや得手不得手**は誰にでもある当たり前のこと」という前提

学生の可能性を広げるために、大学と企業で一緒に考えたいこと



育成・フォロー

現場配属への不安

「一般新人と同じ研修で支えきれるか？」

実習を通じた成長共有

実習期間を「見極め」ではなく、現場と学生の「相互理解」
の場へ。



自己理解

配慮事項の言語化

「自分の特性を自分で説明できるか？」

共同での「トリセツ」作成

大学生活での知見を活かし、就労に必要な「自己理解」を
共同支援。



給与・職務

待遇への誤解

「障害者雇用＝低賃金というイメージ…」

「職務価値」の共通認識

「給与は職務価値で決まる」という事実の周知と、働く
価値観のすり合わせ



支援接続

孤立への懸念

「企業内だけで全てを解決できるか？」

支援のバトンタッチ

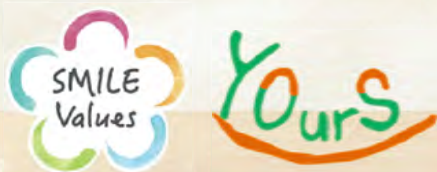
卒業後の定着を見据えた、外部機関へのスムーズな
「支援のバトンタッチ」

皆さまは、学生にどんなサポートがあれば良いと感じますか？

是非、一緒に考えていきたいです！

THANK YOU

ご清聴ありがとうございました



お問い合わせ先：

株式会社 IXL Advanced Showroom
経営管理統括部 ココロラボ 八重樫 祐子

✉ yuko1.yaegashi@lixil.com

疾患や発達の特徴を持つ大学生の自己理解と キャリア形成につながる伴走型支援 ～事例を通して～

中央大学法学部キャンパスソーシャルワーカー（CSW）

石川千佳子

（公認心理師・精神保健福祉士）

自己紹介

石川 千佳子（いしかわ ちかこ）
中央大学法学部 キャンパスソーシャルワーカー

- ・小規模作業所
- ・精神科病院
（カウンセリング・集団療法・精神鑑定・児童思春期外来担当）
- ・うつ病専門リワークデイケア
- ・外部EAP専門機関
（社員のカウンセリング、マネジメントコンサルテーション、研修講師）

* 2017年より現職

本日の内容

- 1 当大学における障害学生の仕組み
- 2 中央大学の障害学生支援の体制とCSWの業務内容
- 3 支援の実際（学修面・生活面・キャリア）
- 4 事例（個別事例・企業連携）
- 5 まとめ

中央大学概要

- ・ 学生数 約3万人 10学部
- ・ キャンパス：多摩キャンパス、後樂園キャンパス、茗荷谷キャンパス、市ヶ谷キャンパス
- ・ 法学部：学生数 5697人（法律学科、政治学科、国際企業法関連学科）
- ・ 各学部にはCSWが配置されている。事務室に席を置いている

【CSW連絡会の設置】

学事・社会連携課、キャリアセンター、ダイバーシティセンター
学生相談課、保健センター、国際センター

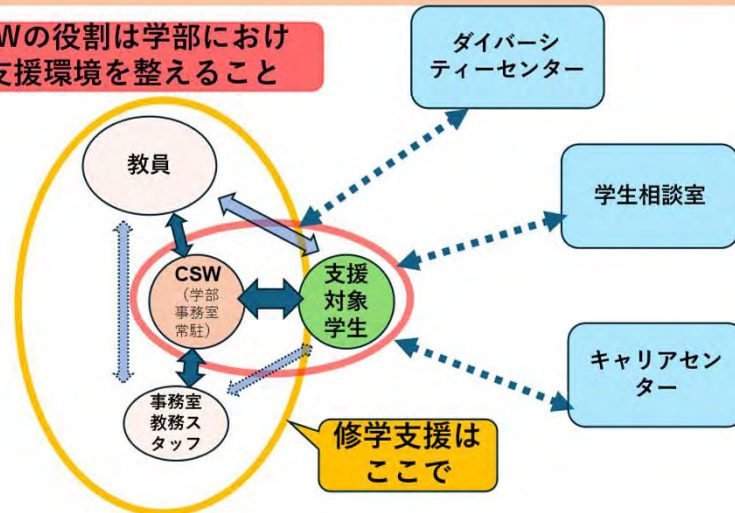
- *障害学生担当部署・各学部の担当職員・CSWで構成されており、定期的な連絡会を開催している。

【障害学生支援に携わる支援者の勉強会の実施】

支援活動について情報の共有及び専門的知見からの検討を行う

中央大学の学生支援システム (伴走型支援の充実を目指して)

CSWの役割は学部における支援環境を整えること



CSWの業務内容

- ①学修に困難を抱える学生への支援
- ②支援案の提案
- ③合理的配慮願いの作成
- ④支援の見守り、支援の調整の実施
- ⑤学生相談室との連携
- ⑥学生のカウンセリング（キャリアカウンセリングを含む）
- ⑦学外資源との連携
 - ・医療機関、就労移行支援事業所、障害者センター、企業等
- ⑧啓発活動

支援の実際（学習面・生活面・キャリア）

学修に困難を抱える学生への支援①

【疾患や特性のある学生が大学で直面する困難】

- ・ 【課題・実行】
- ・ レポート作成に時間がかかる
- ・ 複数の課題の同時進行が難しい
- ・ 締め切りに間に合わない（忘れる）

【参加・表現】

- ・ 大教室で集中しづらい
- ・ 発表やグループ活動が難しい

* やり方がわからない = 学習の停滞

学修に困難を抱える学生への支援②

【疾患や特性のある学生が大学で直面する困難】

【情報の受け取り】

- ・メールやWEB中心の情報を把握しにくい
- ・重要な情報を見落としやすい

【学修の進め方】

- ・履修方法がわからない
- ・どこが重要か判断しにくい
- ・勉強の進め方がわからない

* 努力不足ではなく「プロセスを把握することに困難さがある」

相談から見えてくるつまづき

- ・主な相談：通学困難・成績不振・抑うつ
- ・背景：不適応+発達特性の可能性
- ・要因：大学で自己管理負担↑・環境の複雑化
- ・影響：自信喪失 自己肯定感の低下 二次的メンタル不調

* 支援のポイント *

環境調整 + 特性理解（時間をかけた支援） + 生活・学修のリズム作り

疾患や発達の特徴のある学生の就職活動の課題

メンタル面の課題

自己肯定感の低さと就活

- ・ 大学で特性と向き合う経験
- ・ 挫折と葛藤の積み重ね
- ・ 自信のないまま就職活動

【自己理解の不足】

- * 自分の強みや適性がわからない
- * 合う環境を想像できない

学業との両立

経験不足の課題

学修と就活のバランス

社会経験・対人経験の不足

- ・ 単位を多く残している学生が多い
 - ・ 授業・課題・試験との両立が困難
 - ・ 就活に十分な時間を割けない
 - ・ 留年している学生が多い
 - ・ 友人関係や集団経験が少ない
 - ・ 働くイメージが持ちにくい
- * 時間的・精神的負担が大きい * 就職後の不安につながる

特性や疾患がある中で大学でクリアした課題とは？

(必須項目)

- ・ 自己管理能力を上げる（健康管理、生活管理等）
- ⇒自己保健義務
- ・ 特性を理解する（受容できていなくてもよい）
 - ・ 報告・連絡・相談の習慣が身につく
 - ・ 基礎体力をつける

(努力する項目)

- ・ 対人スキルを身につける
- ・ 具体的な目標をたてることができ、行動することができる
- ・ 考え方や物事の見方を変えることができる

事例A ADHD

■入学～学修面の課題

- サークル活動に没頭し、学修と両立できず成績不良
- 忘れやすさ・集中困難・抑うつ感 → 心療内科受診
- ADHDと診断、薬物療法開始

■困難の具体例

- 「試験を受けた」と報告するが、実際は未受験 → 単位喪失を繰り返す（3回）
- 保護者は「根性の問題・嘘」と捉え、関係が悪化

■背景要因

- 法律学への興味関心の低さ
- 授業理解・学習方法のつまずき
- 高校まで順調だったため、自己肯定感の低下

■支援内容（CSW）

- 教員と連携しミニ学習会を実施
- → 学び方のコツを獲得し、学修の土台を形成

事例A ADHD 進路支援と結果

■就職活動の経過

5年生秋：進路相談開始
一般就職を希望（障害受容が不十分）
就職エージェント・ハローワークを活用
CSWと面談を重ね、自己理解を整理

■転機

「12月までに内定がなければ障害者雇用へ切替」と本人が意思決定
→ 事前に障害者雇用エージェントと連携し準備

■結果

12月時点で内定なし
1月：秋学期試験に集中する
2月：障害者雇用での就活を開始し合同面接会で内定獲得
3月卒業 → 4月就職（現在も安定して勤務）

個別対応から生まれた企業との接点と広がり

個別対応から始まった就職支援の成功事例

きっかけ（5年ほど前の話）

- ・ 大規模な会社説明会では、学生が就労イメージを持ちにくい
- ・ 障害者雇用は当時「中途採用のみ」で、新卒の前例がなかった

お願いと交渉

- ・ CSWがB企業の障害者雇用窓口へ直接問い合わせ
- ・ 個別のオンライン会社説明会を依頼（ダメ元で依頼する）
- ・ 企業が柔軟に対応し、個別説明会が実現
- ・ その後、学生を引率し企業見学を実施

結果

- ・ 見学をきっかけに就職につながった事例：2名
- ・ 新卒として初の採用を実現

継続的な企業連携による就職支援の広がり

就職後の様子

- ・ 業務能力が高く、担当業務の幅を拡大
- ・ 勤怠も安定し、良好な就労継続（契約社員から正社員へ）

その後の経過

- ・ 毎年、希望者を募り長期休暇中に企業見学・説明会を実施
- ・ 追加で1名が入社

学生のメリット

- ・ 説明会で卒業生が働く姿を見る機会を提供
- ・ 就職への不安軽減
- ・ 次の一歩（就職活動）への動機づけにつながる

まとめ

- ・ 個別アプローチが新たな採用機会を創出
- ・ 継続的な関係構築が就職支援の質を向上

まとめ

- ・ 学生が困らないように先回りして支援をすることは原則としてしない
- ・ 「共に悩む」関係性を紡ぐ
- ・ 対話を重視し、時には特性を直面化する
- ・ try&errorを推奨。失敗を苦しめない
- ・ 失敗経験や苦い経験後からの這い上がり⇒成功体験となる
- ・ 学生を取り巻く支援者が連携・協同していること

「育つ」環境を整えるのがCSWの役割⇔調和的環境を作ること

ご清聴ありがとうございました



一橋大学における 就職支援の現状

一橋大学 保健センター アクセシビリティ支援室
障害学生支援コーディネータ
鈴木 祥大



自己紹介

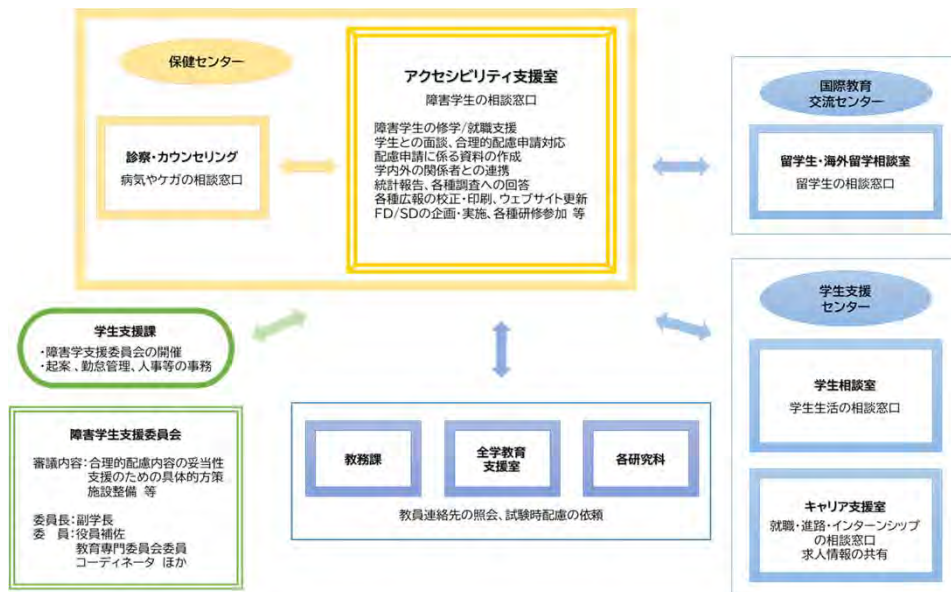
- ▶ 氏名：鈴木 祥大(すずき よしひろ)
- ▶ 所属：一橋大学 保健センター アクセシビリティ支援室
- ▶ 役職：障害学生支援コーディネータ(社会福祉士)
- ▶ 経歴：大学卒業後、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構(JEED)にて、障害者職業カウンセラーとして障害者雇用の支援に従事。2022年より一橋大学の現職にて、障害学生支援を担当。主に学生の修学支援を実施し、併せてその延長線上にある就職支援にも携わる。



一橋大学について

- ▶ 学生数：約6200名
(学部 約4300名、大学院 約1900名)
- ▶ 学部： 商学部、経済学部、法学部、社会学部、
ソーシャル・データサイエンス学部
- ▶ 大学院： 経営管理研究科、経済学研究科、
法学研究科、法科大学院、
社会学研究科、言語社会研究科、
国際・公共政策大学院
ソーシャル・データサイエンス研究科
- ▶ キャンパス
 - ★国立キャンパス(国立市)
 - ・千代田キャンパス(千代田区一ツ橋)
 - ・小平国際キャンパス(小平市)

本学における支援体制



障害学生支援(修学支援)

▶ 修学支援とは

- ・定期面談(履修相談/タスク管理 等)
 - ・合理的配慮の調整
 - ・学内のバリアフリー推進 等
- ➡生活リズムの立て直し、自己対処への気づき・習得を目指す

▶ 近年増えている支援ニーズ

- ・発達/精神障害の増加 ➡ 現在利用者の約9割を占める
 - ・留年回避の相談 ➡ 進級・卒業を目指すので精一杯
 - ・グレーゾーンの学生の増加 ➡ 自己理解に時間を要する、相談窓口が少ない
- ※明確な診断はないが、特性により修学・就職活動に困難を抱える学生

安定した学生生活への地盤作りの途中で卒業...

グレーゾーンの学生へのアプローチ

▶ 経路

- ①定期健康診断の問診
 - ②保健センター等での相談/カウンセリング
- ➡ 潜在的ニーズはまだまだあるのでは？

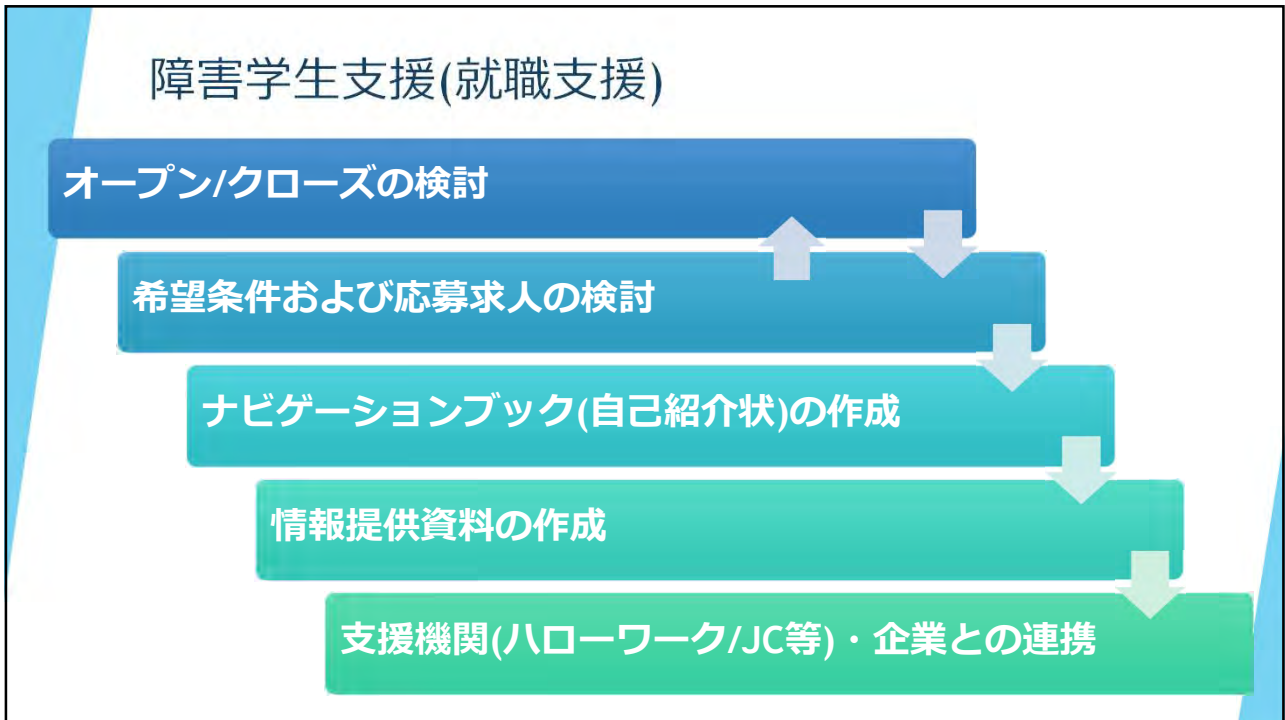
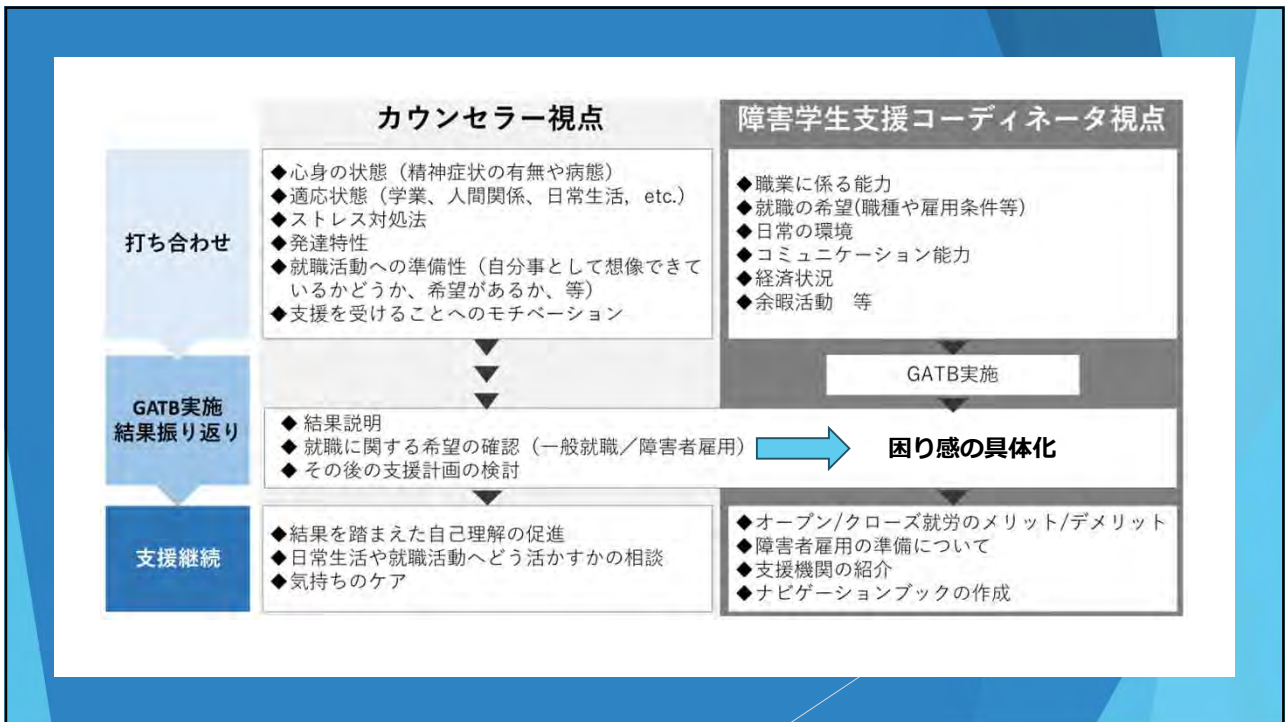
▶ 成績不良や就職活動で顕在化しやすい困難

- ・自己管理(生活リズムの乱れ)
- ・マルチタスクへの対応
- ・対人コミュニケーション(就活の面接やGDを含む)
- ・スケジュール管理 等

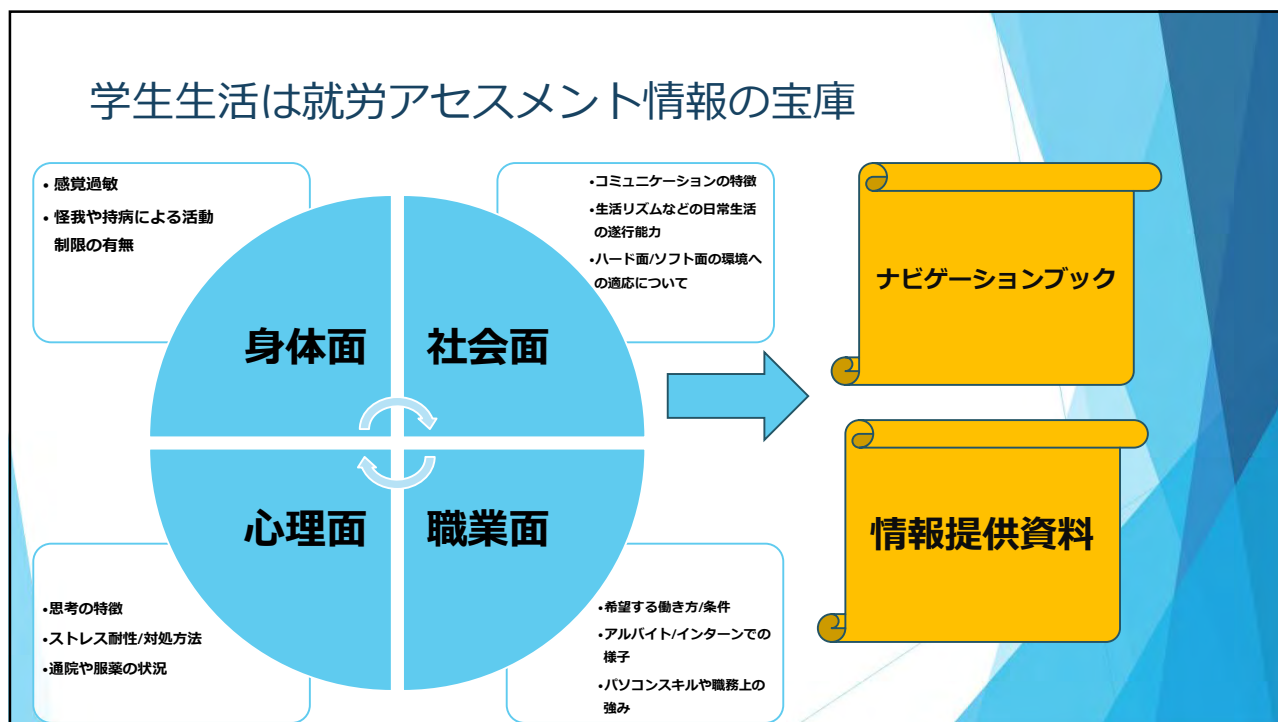
▶ サポートの手段

- ・保健センターとの連携(多職種連携)
- ・一般職業適性検査(GATB)の活用 等

進路選択や就活は共通する悩みの種
≡他の角度よりも継続相談に繋がしやすい



学生生活は就労アセスメント情報の宝庫



ナビゲーションブック(自己紹介状)

▶ ナビゲーションブックとは

- ・自身の特性（得意/不得意）、医療情報、必要とする配慮事項、ストレスサインと対処法（セルフケア）等を具体的に記載。
- ・概ねA4紙1枚程度。履歴書と一緒に提出する場合が多い。

▶ 目的

- ・作成過程における、自己理解の促進。
- ・企業や支援機関との円滑な連携への準備。

➡セルフアドボカシー(=自分に必要なサポートを伝える力)の向上

従来の「修学支援」

合理的配慮の調整、履修相談、タスク管理。
 ➡安定した学生生活の地盤作り

ナビゲーションブック

「就職」へのバトン

「なんとか卒業できた」だけで終わらせない。その先にある社会での自立へ必要となる適切なアセスメント情報を繋ぐ。

企業や支援機関の皆様と考えていきたいこと

▶ 情報交換

① どんな情報を共有できると良いのか

(心の声)立場や段階によって、必要となる情報に濃淡がある。提供できる情報も書こうと思えば際限がない…皆が使いやすい様式とか作成出来たらいいのにな。

② インターンやイベント(見学会、説明会)の内容/時期

(心の声)正直、進級/卒業を目指すので精一杯な学生が多くて、就活も並行してとなると体調を崩してしまう学生が少なくない。ちょうどいい感じの調整はできないだろうか。

③ 連携のタイミング

(心の声)内定が決まってから、企業とのやり取りがあまりなく内定式後から支援スタートとなるより、なるべく早い段階で情報共有や支援機関の利用開始ができるようにしたい。大学側は、卒業以降に学生と関わるのが難しい。

ご清聴ありがとうございました。
今後とも何卒よろしく願っています。

ジョブコーチネットワーク 交流会資料

株式会社エンカレッジ



株式会社

エンカレッジ



在学中から卒業後まで
一貫通の支援

大学の方々と連携
(学内講座・研修他)

企業の方々と連携
社内啓発・体制準備・定着他



働くチカラPROJECT

家でも就活
オンライン

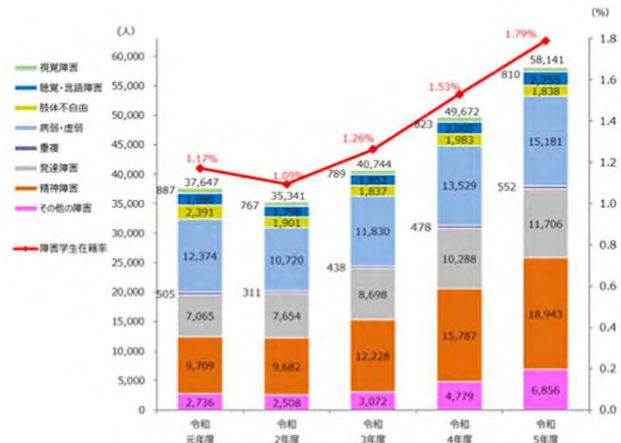


en+courage 2

障害学生の推移

障害学生はここ7年で約1.86倍に急増している

→障害者が増加したのではなく、適切な支援があれば高等教育を受けられる学生が顕在化した



JASSO, 2024「令和5年度(2023年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/_icsFiles/afieldfile/2024/08/06/2023_press.pdf

en+courage

26卒→27卒求人掲載企業数の変化

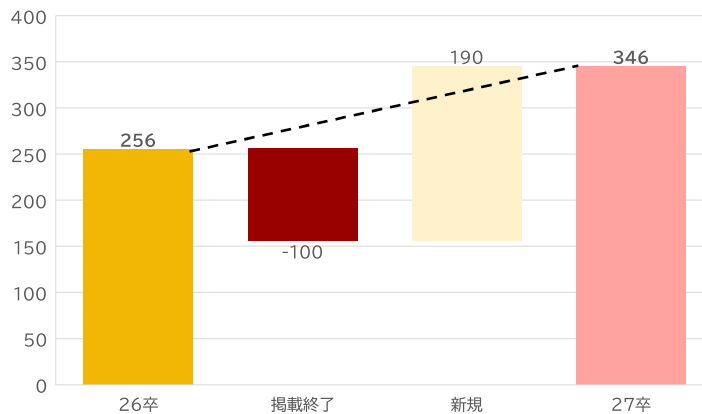
27卒向けは346社*

求人掲載企業数が昨年比+50.3% 市場としては急拡大

WEB上で公開されている情報からの独自調査と、弊社内求人データより
 ※重複なし、特例子会社含む
 ※2026年4月7日時点のデータに基づく

26卒→27卒 求人掲載企業数推移

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



en+courage

面談で聞いた障害学生の悩み①

声の種類	声①	声②	声③
① 自分整理に苦戦	「自己PRが書けない」「強みが思いつかない」「いいことがない、嫌なことは思いつけない」が最頻出	配慮事項を「主治医の診断書をそのまま書いた」「どんな配慮が必要かわからない」と整理できない方法がわからない	アルバイトやインターンシップの経験が少ないので話せることが無い・何を相談すればいいかわからない
② 障害者雇用への怖さ	「正社員になれないんじゃないか」「キャリアが狭まるんじゃないか」という誤解	「障害者雇用＝事務・ホッチキス止め・やりがいがない」というネット情報を信じている	「一般社の方が給与が高いから」と迷い、一般9割・障害1割で受けている学生も
③ 就活のやり方に困る	「何社受ければいいか」「エントリー数が多いのか少ないかわからない」	「手帳申請中でもエントリーできるとは知らなかった」という学生が多数	企業の「面談」が実質面接だと知らず、無対策で臨んで後悔する
④ 体調と就活の両立	「就活のことを考えると体が拒否反応を起こす」「求人を見る気力が出ない」状態での来談が多い	バイトをやめられない経済的事情と、就活に集中できない状況の板挟み	インターンシップ時期に入院・体調悪化、参加できないまま本選考を迎えるケースが複数
⑤ 大学での相談	キャリアセンターと障害学生支援室が別管轄で、どちらも「専門外」になる部分が生じる	「障害者雇用を選ぶと決めてからキャリアセンターに行かなくなった」という学生が複数	「キャリアセンターに障害のことを話にくい、支援室に就活の具体的な話をしにくい」

en+courage

大学側の悩み（支援担当者アンケート）

大学の悩み — 就活支援における課題（支援担当者アンケート n=26、複数回答）

グループ	課題項目	件数
学生の 自己理解支援	学生の自己理解・障害受容をどう進めるか	19
	手帳未取得の学生への支援	1
企業情報・機会の 不足	学生に合う求人情報の不足	13
	障害者雇用に関する情報の不足	12
	インターンシップや体験先の確保	11
	企業側の受け入れ態勢への不安	7
学内連携・体制の 課題	学内他部署・教員との連携	7
	学業と就活の両立	1

大学支援担当者アンケートより

en+courage

企業側の悩み（採用担当者ヒアリングより）

企業の悩み — 採用担当者ヒアリング・障害者雇用支援現場より整理	
グループ	大項目
雇用ノウハウ不足による不安	障害者雇用ノウハウ不足での不安
	精神・発達障害雇用ノウハウ不足での不安
	大学生採用ノウハウがないことでの不安
ポジション・待遇	待遇・ポジション確保
	ポジション創出
	待遇が良いものを用意できない
受け入れ・定着体制	定着時に支援がないので不安
	研修・受け入れ準備
学生の自己理解・準備不足	自己理解不足
	障害受容不足

en+courage

共通した困りの存在

学生	大学	企業
① 自分整理に苦戦	学生の自己理解支援	雇用ノウハウ不足による不安
② 障害者雇用への怖さ	企業情報・機会の不足	ポジティブ・待遇の創出
③ 就活のやり方に困る	学内連携・体制の課題	受け入れ・定着体制
④ 体調と就活の両立		学生の自己理解・準備不足
⑤ 大学での相談		



“自己理解”や“不安・不足”といった共通した困り

en+courage

支援機関として狭間にいるから実施していること

- 2つのアプローチで狭間をつなぐ
- プラス、まずは卒業に専念。それから、就職活動に取り組みたい方のために



en+courage

学生向けサービスの簡易比較表



	① 家でも就活オンライン	② 働くチカラPROJECT
企業の関わり	企業主催の各企画が告知される場所	弊社が運営をしながら企画に企業様が協力場所
目的	情報を得る・機会を知る場所	就業体験・自己理解を深める場所
解消	情報不足	経験/自信不足
対象	全学年・全障害	全学年・発達障害に特化
形式	企業主催:各社様々 弊社主催:オンライン参加+講座・面談	体験型プログラム(対面想定)
開催	随時・常設型	年数回・夏休み等に集中開催
支援者	弊社が企業と学生・大学の間を仲介 ※適宜スポットで伴走 ※大学支援者と連携も	支援者が学生に個別伴走

en+courage

「家でも就活オンライン」でできること

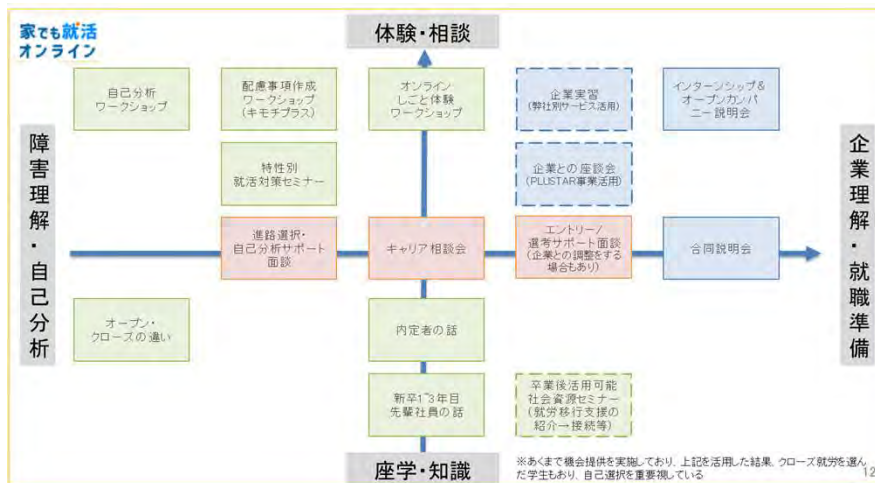
2,000名+ 登録学生数	350大学 参加大学数	100回+ 年間イベント開催	完全無料 登録・利用
------------------	----------------	-------------------	---------------

 インターン検索・しごと体験 <ul style="list-style-type: none"> ・インターン&キャリア情報検索 ・「オンラインしごと体験」 	 就活イベント・セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・障害別の就活対策セミナー ・内定者、障害者雇用で働く先輩の話
 就活お役立ち情報 <ul style="list-style-type: none"> ・就活スキルアップコラム・動画が多数！ ・先輩の就活体験談 	 個別相談・求人紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・求人情報検索 ・求人のご紹介(就活エージェント)

全障害に対応！手帳・診断なしでも利用OK！

(参考) 家でも就活オンラインの考え方と実施していること

- ・ 情報不足・機会不足に対して「座学・知識」と「体験・相談」の2つの切り口で機会を提供。学生が準備の階段を登れるようにし、“障害理解・企業理解”等の醸成を図る



働くチカラPROJECTの概要

働くチカラPROJECT

東京

- 発達障害のある学生対象の就労準備プログラム
- 興味のあるところから、参加しやすく（無料）

対象

- ・発達障害のある大学生/院生/短大生/専門学校生
- ・既卒生の方も参加可能です！

※学年・診断の有無は問いません。
※ご家族、大学の支援者の見学・同行も大歓迎！

こんな悩みのある学生さんにオススメ

- コミュニケーションに不安がある…
- 働くイメージが持てない…
- 就職活動に向けて、何をすべきか知りたい
- 自分の強みや得意を知りたい
- 自分にどんな仕事が合うのかわからない…

プログラム

- ・会社訪問ツアー
↳働く先輩の先輩の話、業務体験、企業理解
- ・就活ゼミ
↳気になるポイントに沿ったテーマ設定
- ・キャリア育成支援型 インターンシップ
↳特性理解と仕事体験が目的
- ・ゆるっと就活相談タイム

ねらい

- ・自分にあった就活の進め方、働き方を知る
- ・障害者雇用のリアルな情報と正しい理解
- ・就活テクニックの伝授ではなく、働く土台づくりが重要というメッセージ
- ・就活を伴走してくれるのが就労移行支援事業所なんだと知ってもらうこと（入り口）

学生

enc

en+courage

事例1 ミカさん

働くチカラPROJECT



- ・就職先：住宅設備メーカー
- ・職種：本社事務業務
- ・雇用形態：契約社員
- ・障害種別：ASD
- ・特性/困り：状況に合わせた柔軟な思考の変換、マルチタスクが苦手。環境への順応に時間がかかる、悩みや困りを抱え込み体調を崩しやすい。

働くチカラに参加し、焦らずに就活をしよう、支援者と相談しながら進められる方がいい！と気づいた事例。

エンカレッジ・主治医・家族と相談できることで、悩みやストレスを早めに解決！

通院先からの紹介で、大学3年春休み・4年の夏休みと働くチカラPROJECTに参加。
(しごと体験、就活ゼミ等)

働くチカラPROJECTに参加し、**自分に合った就職活動の方法を知り、焦らずに就活しようと決意。**

働くことに自信がないためしっかり準備をしたい、伴走者がいて欲しいという希望から、就労移行支援の利用を決める。4年生の10月～利用開始。

卒業までの半年間は、環境に慣れる、働く体力の確認、特性理解を目標に。
面談の場面でエンカレッジの活動を振り返り、こまめに相談する機会をつくる（主治医とも連携）

大学卒業後から体験実習開始。5社の体験実習を経験しつつ、自分に合った環境・業務内容・配慮事項を整理をする。6社目の実習（採用前提）で、自分に合った職場だと感じ、内定を得て入社。

事例2 コウスケさん

働くチカラPROJECT



- 就職先：大手エネルギー会社
- 職種：事務補助業務
- 雇用形態：契約社員
- 障害種別：ASD
- 特性/困り：わからないことや不明点の相談ができません、自己発信が乏しい。複雑な状況や高度な言語的なやりとりが難しく、会話がかみ合わないこともある。理解・表現ともに苦手さがある。

就労移行支援を利用して、じっくり就活に取り組んだ事例。

体験実習の経験から、本人の得意、苦手を整理し、強みとなる業務選びをサポート！

4年生の夏休みにエンカレッジ働くチカラPROJECTに参加（しごと体験）。公務員の説明会などには参加していたが、卒業単位も危ぶまれたため卒業を優先することに。

卒業後、周田からの勧めで複数の就労移行支援事業所を見学。その中で馴染みのあったエンカレッジに利用を希望。

これまでアルバイトの経験もなく、自分が何ができて何が苦手かがよくわからない状態。当初、大学が地理学科だったため、地理や地図を見る仕事がいいと言っていた。

エンカレッジで、手順書の見方、業務中に必要なコミュニケーションについて取り組む。

本人がやってみたいと希望があった事務、物流、バックヤードでの体験実習を6社経験。実習経験から、生産性と速度が求められる物流は、自分に合っていないと気付く。

一定自分のペースで進められ、繰り返し行うことで速度もあがっていくことから事務補助系での業務で働くことの軸を定める。現在働く会社で体験実習⇒雇用前実習⇒最終面接で内定を得て、入社。

ご連絡先情報

株式会社エンカレッジ

エンカレッジ早稲田・関内(働くチカラPJ) 担当:高橋

T E L : 045-315-3351

Mail : akikot@en-c.jp

キャリア雇用デザイン事業部 担当:小川

T E L : 080-4120-6873

Mail : enchrservice@en-c.jp

WEB :

<https://en-c.jp/com/> (企業向けサイト)

<https://en-c.jp/> (コーポレートサイト)

MEMO

参加者アンケートのお願い



QRコードからアンケートのご入力をお願いします。

「東京ロータリークラブ みんないきいきプロジェクト」
第3回 企業内ジョブコーチ交流セミナー

日 時：2026年5月13日（水）
会 場：AP市ヶ谷 Dルーム
東京都千代田区五番町1-10 5階
主 催：NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク
協 賛：東京ロータリークラブ
全国ジョブコーチ連絡協議会

非売品・禁複製